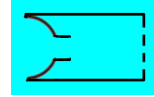


トキの餌生物に対する現状調査と両生類の保全 -野生順化施設内及びその周辺の餌生物調査-

* 阪田 幸子 ・ 関谷 國男 (理学部)



背景と目的

野生復帰に向けて、順化施設の建設が2005年から始まっている。コウノトリ目のトキやコウノトリでみられる過去の例から群れをなすトキが仲間の元へ戻ってくることが予想され、順化施設周辺の環境は採餌できる環境も必要だと考えられる。過去の調査から、トキにとって両生類・サワガニ・昆虫・魚類などが重要な餌生物であることが知られている。

今回は両生類とサワガニを取り上げて、それぞれの種の生息確認 生息場所 次世代の出現について調べることを目標とする。

調査地と調査方法

調査地

順化施設は小佐渡地方の新穂正明寺に建設中である。山裾に多くの水田が存在する。また、沢は山裾に三本ある。この水系により多様な水場環境が形成されている。調査地を順化施設内の沢を St.1~3、周辺の水田を St.4~6 と分ける(図1)。

対象生物

- ・両生類6種(ヤマアカガエル・ツチガエル・ニホンアマガエル・モリアオガエル・クロサンショウウオ・アカハライモリ)
- ・サワガニ

方法

- ・月に1~2度の頻度で調査を行う。
- ・両生類の生活史を卵、幼生、幼体(上陸したての個体)、成体という成長段階で区分し、St.ごとに生活史を作成する。
- ・順化施設敷地内は一定ルートを約3時間かけて、順化施設周辺の水田は一定ルートを約1時間ずつかけて見てまわる。沢は一通り沢沿いを歩き、水中トラップを仕掛けたり、目視や捕獲で生物の確認を行う。

* 水中トラップ

ペットボトルで作製し、オキアミを入れて水中

へ仕掛ける。一晩置いた後に引き上げて、かかった生物の種の同定、数、体長の測定などを行う。

結果

- ・両生類とサワガニすべてが確認できた。
- ・水の張られた水田はカエル(ヤマアカ・ニホンアマ・モリアオ・ツチ)とクロサンショウウオの産卵場所として大変有用である。
- ・新しいピオトープはツチガエルとヤマアカガエルにとって良い生息場所となっている。
- ・沢では多くのサワガニが、ほぼ一年を通して一定の密度で生息している。
- ・すべてのカエルとクロサンショウウオは繁殖行動が確認できた。
- ・ヤマアカ・アマガエル・サワガニの次世代の出現が確認できた。

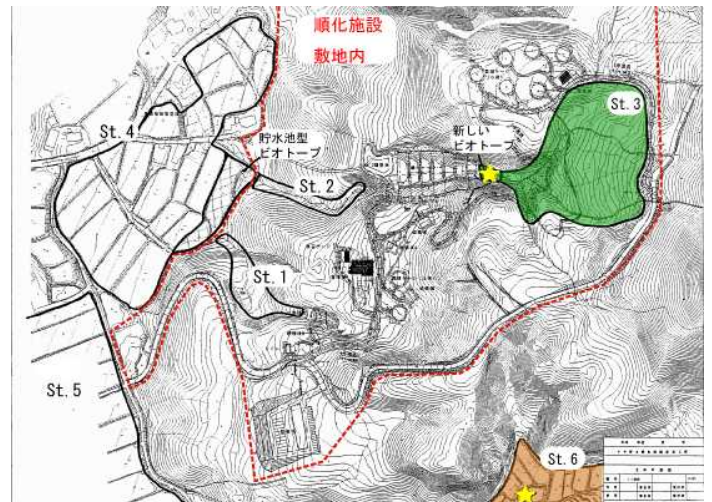


図1 順化施設内とその周辺の地図

：ツチガエルが頻繁に出現した場所
St.3の新しいピオトープにはヤマアカガエルも頻繁に出現